

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年3月29日

事業所名 ひまわり学園

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10	2	<ul style="list-style-type: none"> ・時間で区切る対応等をしている。 ・りんく組の兼ね合いを考えると、スペースが足りないと感じる。 ・午睡スペースが狭く、密集している日がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋の使い方についてはスペースを見直し、改善できるよう取り組みます。
	② 職員の配置数は適切である	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人数に対し、適切な人数である。 ・登園している児によって、職員の手が足りないことがある。基準以上の配置であるものの、活動内容や特性によっては手がたりないことも多い。 ・休みの職員がいると、配置数が少ないと感じることもある。 ・人数的には、適切であるが、子どもの状況によって臨機応変に対応する必要があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休みの職員が多い際には、危険なく活動できて、安心して楽しめる活動プログラムに変更して対応できるように取り組みます。
	③ 生活空間は、本人に分かり易く構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	10	2	<ul style="list-style-type: none"> ・構造化されており、集中して行えている。 ・構造化されており、子どもたちは混乱なく過ごしている。 ・もっと細やかなバリアフリー化が必要だと思う。 例) 男子トイレの手すり	<ul style="list-style-type: none"> ・男子トイレの手すりは全て取り付けるとお子さんがぶつかることもあると思うので、場所を含め他にも設備を確認して、必要に応じて対応できるように取り組みます。
	④ 生活空間は清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレは悪臭なく、心地よく過ごせる空間となっている。 ・身体調和マッサージの場所がリラックスできるとはいえない。時間か場所を変えるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マッサージについては、リラックスできる場所や時間をプログラム等含め、職員皆で検討していきましょう。
業務改	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標と設定の振り返り）に、広く職員が参加している	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りによって、児の様子を共有し、迅速な改善、対応につなげることができている。 ・個別支援計画に基づき、月間目標を決め、取り組み、反省、改善を行っている。 ・係ごとにPDCAサイクルに基づいた振り返りが必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・係ごとのPDCAサイクルに基づいた振り返りを、計画的に行うように改善していきましょう。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向を把握し、業務改善につなげている	12	0		

善	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者等向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の広報やホームページ等で公表している	12	0	・ホームページで公開する必要がある。	・情報提供不足ですみません。ホームページには、公開しています。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	9	3	・外部評価をしているか分からない。	・外部評価は、まだ取り入れていませんが検討しています。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	12	0	・適宜、研修に参加できている。 ・様々な研修の機会がある。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	12	0	・ニーズについては、紙に記入していただいている。客観的に分析出来ていると思う。 ・アセスメントについても、会議等で職員全員に周知する必要がある。	・今後もアセスメント内容については、振り返りの時間や会議の時間で共有していきます。また、個別のファイルで確認してもらえたらと思います。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11	1	・遠城寺式評価を使用している。 ・適応行動に対するツールはない。	・標準化されたツールを取り入れられるよう準備を進めていきます。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	12	0	・発達支援、家族支援、地域支援が盛り込まれている計画となっている。	・今後も具体的な支援内容を設定し、取り組んでいきたいと思います。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	12	0		・引き続き、計画に沿った支援を行っていきましょう。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	2	・メインが行い、他の職員に朝会で共有している。 ・クラスプログラム、行事は担当者個人で行うことが多い。チームでは行っていない。	・現在は、クラスプログラムについては担任同志で話し合いをしながら進めていますが、支援に参加する職員からも意見をもらったりできるように取り組みます。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	2	・一週間の中で重なることはない。同じ活動でも、やり方を少し変えて行うこともある。 ・活動プログラム（特にクラスプログラム）がややマンネリ化している。 ・季節に応じた活動（散歩、たこあげ等）がもっとできると良い。	・ミュージックケアや感覚遊び等を充実したり、季節に応じた活動を取り入れたたりして、固定化しないようにしていきます。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	12	0	・理解度の高い子には、個別支援計画の説明も必要だと思う。	お子さんの理解度に合わせて、進めていきたいです。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	12	0	・朝会にて確認している。	・今後も取り組んでいきます。
	⑱	支援終了後には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	12	0	・毎日の振り返りを行っている。	・今後も取り組んでいきます。

	①⑨	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	12	0	・NDに入力している。 ・記録の書き方（種別）を入力できると良い。	
	②⑩	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	12	0	・月間目標を決め、モニタリングを行っている。 ・毎月、療育支援会議を行っている。	・今後も必要に応じて連携をしていきます。
関係機関や保護者との連携	②⑪	児童発達支援事業所サービス担当者会議にその子供の状況に精通した最もふさわしい者が参画している	12	0	・児発管が参加している。	
	②⑫	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	12	0	・親子歯科教室を開催した。 ・相談員との連携がもっと密になるとよい。	
	②⑬	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等の支援をしている場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				・現在は利用されていませんが、利用される方がいらっしゃる場合には、連携支援を整備していきたいです。
	②⑭	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等の支援をしている場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				・現在は利用されていませんが、利用される方がいらっしゃる場合には、整備していきたいと思います。
	②⑮	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12	0	・入園の際、情報共有をしている。 ・保育所等訪問事業を実施し、相互理解に努めている。	・今後も情報共有を密に行っていきます。
	②⑯	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11	0 (1)		・今後も情報共有を密に行っていきます。
	②⑰	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11	1	・eサービスの研修はとても良かった。たくさんの職員が参加できると良い。	・職員の皆さんに必要な研修に参加できるように調整していきます。
	②⑱	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	9	・中庭に出た際など玩具をかりたりすることはあったがほとんど交流はなし。もう少しあると良い。転園児もいるので雰囲気をお互いにわたりできるように。 ・運動会は、合同で行っているが交流はあまりない。併施設との定期的な交流はない。もっと、交流するべき。コロナの流行もあり機会がなかった。徐々に機会が増えてほしいです。 ・同じ建物にいても積極的には交流できていない。	・行事などの機会等に、交流できるように調整していきたいです。
	②⑲	（自立支援）協議会子ども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	9	1 (2)	・市保研に参加している。 ・把握していない。 ・児発管が参加しているが、テーマによっては別の職員が参加しても良いと思う。	・テーマによっては、別の職員も参加できるようにしていきたいです。

	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解 を持っている	12	0	・送迎時に子どもの様子を 共有している。連絡ノート を用いたり、送迎時に情報 共有をしている。 ・相談会を実施し、悩みや 困り感について共有し、助 言をすることができた。	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護 者に対して家族支援プログラム（ペアレン ト・トレーニング等）の支援を行っている	7	4	・プログラムとしては実施 していないが、困りごと に対してカードの導入を保護 者にも行ってもらってい る。 ・ペアレントトレーニング については今後、行う必要 がある。	・職員がペアレント・トレ ーニングの研修に参加でき るように、取り組みたいと思 います。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明 を行っている	12	0	・利用契約時に説明するこ とができている。	
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「自童発達支援 の提供すべき支援」のねらいおよび支援内容 と、これに基づき作成された「児童発達支援 計画」を示しながら支援内容の説明を行い、 保護者から児童発達支援計画の同意を得てい る	12	0		
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対 する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を 行っている	12	0	・相談会を設けている。 ・相談会の回数について は、検討が必要だと思う。	・年3回（クラス担任）が個別 相談会を行っているが、次年 度は2回。随時悩み事には、相 談に乗らせていただくことで 対応したい。
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援 している	12	0	・定期的に保護者会を開催 することができている。	・次年度は3回開催する予定。
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申し入れについ て、対応の体制を整備するとともに、子ども や保護者に周知し、相談や申し入れがあった 場合に迅速かつ適切に対応している	12	0		
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動の概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	12	0	・広報誌を定期的に発信し ている。	
	③⑱	個人情報の取り扱いに十分注意している	12	0	・個人情報を含む手紙は、 ダブルチェックを行ってい る。 ・USBの管理について検討 が必要。	・今後も情報の取扱いに十分 注意していきます。
	③⑲	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や 情報伝達のための配慮をしている	11	0 (1)	・視覚カードを使用するな ど、伝わりやすいように工 夫している。	・お子さんそれぞれに、伝わ りやすい工夫をしています。
	④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に 開かれた事業運営を図っている	1	1 0 (1)	・園開放を行っている。 ・コロナ禍のため行ってい ない。コロナ禍により難し い。	・コロナウイルスが緩和され る予定なので、地域の方に 知っていただけるような交流 を検討します。
	④②	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感 染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護 者に周知するとともに、発生を想定した訓練 を実施している	11	1	・保護者の方々にマニユ アルについては伝えていく必 要がある。	・保護者の方にも、いつでも マニュアルを見ていただける ような工夫をします。
	④③	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出 その他必要な訓練を行っている	12	0	・月に1回、避難訓練を 行っている。	

非常時の対応	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	12	0	・内服、てんかんについては学びを深めていく必要がある。	・お子さんそれぞれの状況に応じて、勉強の機会を設けていきます。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12	0	・指示書については、改めて確認をする必要があると思う。	・指示書については、確認できる仕組みを作っていく。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11	1	・朝会や会議等で共有している。	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	0	・研修会に参加したり、アンケートを実施することができている。メンタルヘルスチェックを毎月できるとよいと思う。	・メンタルヘルスのチェック表も定期的に行っていきます。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	3 (2)	・身体拘束を行っていないため、計画にも記載していない。 ・組織的に決定する体制をと整えていく必要がある。	・身体拘束に値する事柄については、職員会議でも検討していきましょう。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。